

ACTF HTML Checker 開発手順書

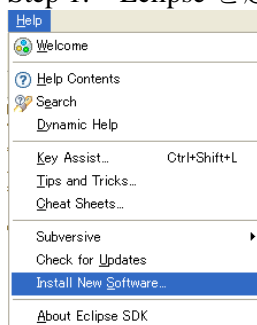
1. 前提条件

- ✓ Operating Systems
Windows® XP 以降
- ✓ Software
 - Eclipse 3.8.x (Windows 32bit 版)
<http://archive.eclipse.org/eclipse/downloads/drops/R-3.8.2-201301310800/>
(Eclipse Classic package を推奨)
 - EGit <http://eclipse.org/egit/download/>
 - Java Runtime Environment (JRE) 5.0 以降
<http://java.sun.com/javase/downloads/index.jsp>
(参考: <http://www.eclipse.org/downloads/moreinfo/jre.php>)
 - Internet Explorer 7.0 以降

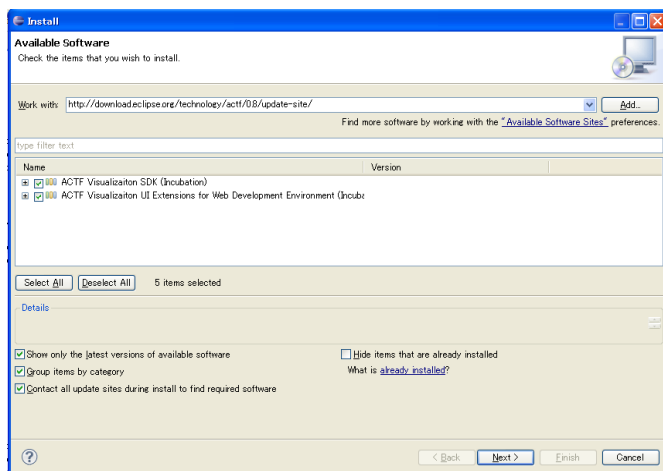
注: 利用中の Windows OS のバージョン(32bit 版, 64bit 版)に関わらず, **32-bit 版**の Eclipse および JRE を使用してください

2. Eclipse Accessibility Tools Framework (ACTF) Visualization SDK の導入

Step 1: Eclipse を起動し **Help -> Install New Software** メニューを選択します.



Step 2: ACTFプロジェクトの update-site URL (下記)を“**Work with:**”欄に記入します。
<http://download.eclipse.org/technology/actf/1.1/update-site>



Step 3: ACTF Visualization SDK を選択し、 **Next** ボタンを選択。利用条件などを表示するウィザードが開始されるので、ウィザードの指示に従って ACTF Visualization SDK を導入します。

導入終了後に、Eclipse の再起動を求められるので、再起動を実施します。

3. HTML Checker ソースコードの導入

Step 1: Team Project Set ファイル（ソースコード一括導入用ファイル）を下記 URL よりダウンロードします。

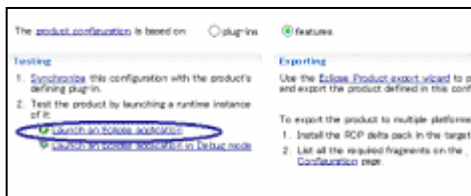
<http://www.eclipse.org/downloads/download.php?file=/technology/actf/psf/anonymous/htmlchecker.zip>

Step 2: htmlchecker.zip ファイルを解凍します。（htmlchecker.psf ファイルが生成されます。）

Step 3: Eclipse の **File>Import>Team>Team Project Set** を選択、次に表示される画面で **File** を選択した後、前 Step で生成された htmlchecker.psf を指定し **Finish** を選択してソースコードをインポートします。

4. HTML Checker の起動

org.eclipse.actf.examples.htmlchecker プロジェクトを選択し、プロジェクト内の htmlchecker.product ファイルをダブルクリックするなどしてプロダクトエディタを開きます。エディタ内の **Testing** 項目内に有る **Launch an Eclipse Application** を選択すると、ACTF の評価ルーチンを利用した HTML のアクセシビリティチェックが実施されます。



Eclipse のワークスペースから実行する際には、Eclipse の配置されているフォルダ内（例： c:\eclipse 等）に評価対象となる HTML ファイルの一覧が記載された **htmlmlist.txt** が存在していることを仮定しています。

org.eclipse.actf.examples.htmlchecker-feature プロジェクトの **rootfiles** フォルダ内に **htmlmlist.txt** ファイルのサンプルがありますので、こちらを c:\eclipse 等にコピーした上で編集して利用してください。

Run Configurations メニューから Arguments タブ内の Program arguments に

-f "c:\test\htmlmlist.txt"

などと追記して、HTML ファイル一覧の記載されたファイルを指定することも可能です。

htmlchecker を実行した際の実行エラーなどは、Eclipse の配置されているフォルダ内に **log.txt** として出力されます。また、**result** というフォルダが作成され、その中に評価結果のファイル群が作成されます。

5. HTML Checker のビルド

4. と同様の手順にて、htmlchecker.product ファイルを開き、**Export** 項目内に有る **Eclipse Product export wizard** を選択し、ウィザードに従って htmlchecker のビルドを実施します。

ウィザードのパネルにおいては、**Root directory** を htmlchecker とし、ビルド結果の出力先ディレクトリを **Directory** 欄で選択した上で、**Export Options** の各オプションをすべてオフにした状態で **Finish** ボタンを押してビルドを実施します。

ビルドが終了すると、**Directory** 欄で指定した場所に htmlchecker.exe を含むビルド結果一式が出力されます。この際、htmlmlist.txt のサンプルも一緒に配置されますので、適宜内容を修正のうえ、htmlchecker.exe を起動して、result フォルダが作成され、評価結果が出力されることを確認します。
コマンドラインから

```
htmlchecker.exe -f "../../htmlmlist2.txt"
```

などと引数をつけて実行することにより、読み込ませる HTML ファイル一覧の記載されたファイルを変更することも可能です。

6. Eclipse ACTF プロジェクトに関して

Eclipse ACTF プロジェクトは、Eclipse Foundation 内で活動しているオープンソースプロジェクトです。詳細は、プロジェクトのホームページ（<http://www.eclipse.org/actf/>）をご覧ください。

6.1 ソースコード

Eclipse ACTF プロジェクトのソースコードは、ACTF プロジェクトの CVS レポジトリより誰でも入手可能です。詳細は下記 URL を参照ください。

<http://www.eclipse.org/actf/contributors.php>

6.2 開発者向け情報（API リファレンス等）

ACTF Visualization SDK には、開発者向けの情報（API リファレンス等）が含まれています。SDK 導入後、Eclipse の Help > Help Contents メニューから Help を開き、Eclipse Visualization SDK Developer Guide を参照してください。

6.3 問題報告・改善提案

もし、ACTF に起因する問題を発見した場合は、下記の URL より問題報告を行うことが出来ます。

https://bugs.eclipse.org/bugs/enter_bug.cgi?product=ACTF

(事前に、Eclipse のバグ報告用アカウントを作成する必要があります。次の URL にアクセスして、アカウントを作成してください。<https://bugs.eclipse.org/bugs/createaccount.cgi>)

問題報告に加えて、問題点修正や機能拡張のためのパッチを提供することも可能です。問題点報告画面の“Team”->“Create Patch”メニューを活用してください。

6.4 開発に関する議論等

ACTF の開発に関する意見・質問等がある場合は、メーリングリストに投稿することも可能です。下記の URL より、”actf-dev” メーリングリストに登録し、議論に参加してください。

<https://dev.eclipse.org/mailman/listinfo/actf-dev>

権利表示について

Microsoft および Windows は Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。
Java およびすべての Java 関連の商標は Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
その他、各ページに記載されている会社名、システム名、製品名などは、一般に 各社の商標または登録商標です。なお、各ページ内では (TM)、(R) および (C) マークは省略しています。